

要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-1]

ウエルツケ脳症治療中に発症したと思われる高度肛門周囲膿瘍をリハビリ中は褥瘡として対処され難治性痔瘻となった症例

柴田 佳久 (総合青山病院)

[R16-2]

血栓性外痔核の外観を呈した肛門部乳頭状汗腺腫の1例

蓮田 慶太郎 (社会医療法人愛育会福田病院肛門外科)

[R16-3]

*Fusobacterium nucleatum*に対するブラックミンの抗菌力石川 正夫¹, 山田 浩平^{1,2}, 村田 貴俊³, 花田 信弘⁴, 渋谷 耕司¹ (1.OHS研究所, 2.フェアウェル合同会社, 3. 鶴見大学歯学部口腔衛生学講座, 4.上海理工大学光化学与光材料研究院)

[R16-4]

梅毒性直腸炎の1例

森 俊治¹, 田中 香織¹, 山田 英貴² (1.森外科医院, 2.山田外科内科)

[R16-5]

早期梅毒性肝炎を合併した早期梅毒に対してベンジルペニシリンベンザチン水和物が有用であった1例

田中 香織¹, 森 俊治¹, 山田 英貴² (1.森外科医院, 2.山田外科内科)

[R16-6]

肛門科クリニックを受診した肛門クラミジア感染症例の検討

吉田 幸平¹, 樽見 研² (1.新宿おしりのクリニック, 2.樽見おしりとおなかのクリニック)

[R16-7]

都心部肛門科クリニックにおける梅毒診療の現状

福原 政作^{1,2} (1.名古屋栄駅前ふくはら大腸肛門外科・消化器内科, 2.医療法人愛知会家田病院)

[R16-8]

肛門小窩炎に伴う肛門痛に対する2薬剤の比較検討

矢野 孝明 (ヤノ肛門外科クリニック)

要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ 肛門外科クリニック 肛門外科), 日高 仁(医療法人 祥久会 日高大腸肛門クリニック)

[R16-1] ウエルツケ脳症治療中に発症したと思われる高度肛門周囲膿瘍をリハビリ
中は褥瘡として対処され難治性痔瘻となった症例

柴田 佳久 (総合青山病院)

はじめに：高齢者で脳血管疾患を有しながら各科手術や積極的治療を受ける機会が増えた一方、その後在宅療法を余儀なくされる患者も多い。原疾患治療で長期入院中に発生場所が臀部であるために褥瘡と捉えられ、肛門周囲膿瘍を見逃されて誤った処置がなされてしまう症例が存在する。今回、脳症にて入院治療となり、リハビリ転院中に褥瘡の診断で不十分な処置が長期になされた肛門周囲膿瘍を経験した。

症例：60才代男性。既往歴：心筋梗塞手術後。現病歴：4年前複視出現，歩行困難にて基幹病院入院。ウエルツケ脳症・四肢筋委縮・左側体幹失調・小脳半球失調の診断治療がなされた。記憶見当識注意認知機能低下と心機能低下から高度リハビリテーションは困難と判断され，リハビリ病院経由で療養病院転院となった。下着汚染がみられ先医から褥瘡として処置されていた。診察・CTにて肛門周囲膿瘍とその臀部への進展と診断し，基幹病院外科・皮膚科へ紹介するも肛門直腸との瘻孔なしと診断され，臀部高度褥瘡として皮膚切開・洗浄処置を指示されていた。膿瘍腔の拡大にて再度基幹病院受診とするも皮膚切開の追加で終わっていた。褥瘡処置・洗浄にて一部創の縮小がみられたが膿瘍腔は深く残存したため，入院施設より当院当科紹介となった。治療経過：診察とCT下瘻孔造影検査を行い，高位広範肛門周囲膿瘍・痔瘻と診断した。脊椎麻酔下根治術を予定するも，高度徐脈，心不全となり循環器内科にて治療される。薬剤治療後，局所麻酔にて肛門周囲膿瘍処置を行った。栄養補給，局所処置，リハビリテーションを行い，時間は要したが瘻孔及び膿瘍腔の治癒を見た。結語：褥瘡としか認識されず，フルニエ症候群までには至らなかった高位肛門周囲膿瘍の1例を報告した。今後脳血管疾患による体動制限，リハビリ入院，高齢に対する在宅療法がますます増加すると予想されるが，肛門周囲膿瘍を褥瘡として漫然と処置される危険があることを認識し，肛門病専門医として医療者への啓発が必要と考える。

要望演題

■ 2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 ■ 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-2] 血栓性外痔核の外観を呈した肛門部乳頭状汗腺腫の1例

蓮田 慶太郎 (社会医療法人愛育会福田病院肛門外科)

(はじめに) 外陰部、肛門部に発生する乳頭状汗腺腫は比較的まれな良性疾患であり、特に肛門部の症例は報告例が少ないため、痔核、痔瘻、ウイルス性疾患等との鑑別が重要になる。今回、術前に血栓性外痔核と診断され、術後、乳頭状汗腺腫と病理診断された症例を経験したので報告する。(症例) 50歳女性 (既往歴) 12歳時、虫垂切除術、46歳時、子宮筋腫 (出産歴) 2回、25歳時と27歳時 (現病歴) 4週間前に肛門部の腫瘤に気づき当院を受診した。腫瘤は肛門縁より1cm外側の7時方向に認められ、大きさ1cm、楕円形、硬、表面平滑、可動性良好、皮膚に覆われ、血栓性外痔核様の外観であった。局所麻酔にて切除を行い、摘出した腫瘤に対して病理組織検査をおこなった。(病理診断) 真皮内に嚢胞構造が認められ、その中に上皮と線維性間質が葉状分葉状構造、管状構造、乳頭状構造をとって充実性に増殖していた。上皮はアポクリン腺上皮細胞と筋上皮細胞の細胞2相性を示す像が基本であった。乳腺に発生する乳管内乳頭腫に類似した組織像であり、乳頭状汗腺腫と診断された。切除断端は陰性で、術後1年経過し、局所再発を認めていない。(まとめ) まれな肛門部乳頭状汗腺腫を経験した。乳頭状汗腺腫は、外陰部、肛門周囲の乳腺様腺組織(anogenital mammary-like gland (AGMLG))を母地として発生する良性腫瘍であるが、まれに悪性例の報告もあり、腫瘤の完全摘出と病理組織検査が必要である。

要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-3] *Fusobacterium nucleatum*に対するブラックミンの抗菌力

石川 正夫¹, 山田 浩平^{1,2}, 村田 貴俊³, 花田 信弘⁴, 渋谷 耕司¹ (1.OHS研究所, 2.フェアウェル合同会社, 3.鶴見大学歯学部口腔衛生学講座, 4.上海理工大学光化学与光材料研究院)

【目的】

*Fusobacterium nucleatum*は、口腔内常在菌で歯周病や産生する硫化水素やメチルメルカプタンは、口臭の原因となることが知られているが、近年、腸内へ移行し、大腸癌の発症や進行に関与する可能性が報告されている。本研究では、食品として摂取可能な天然物の中から、*F. nucleatum*に対する抗菌および硫黄化合物代謝阻害を有するものについて探索を行った。

【試料および方法】

植物材料：植物の抽出物およびインド産のキンポウゲ科のブラックミン(*Nigella sativa* L.)の種子精油と含有成分

使用菌株：*Fusobacterium nucleatum* ATCC25586 (以下、Fn菌と略す)

抗菌試験：最小発育阻止濃度 (MIC) は96well plateにサンプルを段階希釈調製し、5ppmヘミンおよび0.5ppmメナジオンを含むTryptic Soy Brothで前培養したFn菌を分注し、嫌気下48時間培養しOD₆₅₅より判定した。

代謝物測定：Fn菌および大腸菌発現系を用いたりコンビナントFn菌L-メチオニン-γ-リアーゼ (メチオニナーゼ) を用いて、L-メチオニンの代謝物である硫化水素 (H₂S) およびメチルメルカプタン(CH₃SH)はガスクロマトグラフ法で、α-ケト酪酸とアンモニアは比色法で測定した。

【結果】

ブラックミン種子精油 (BC) はFn菌に対しMICは63 ppmであり抗菌活性を示した。また、精油中の含有量が最も多いチモキノン (TQ) のMICは31ppm、チモハイドロキノンは16ppm、チモールは125ppmであった。L-メチオニンの代謝物評価は、100ppmのBCおよびTQでCH₃SH量が減少し、チモールでは変化しなかった。さらに、メチオニナーゼ阻害活性もBC、TQは10ppmレベルで効果が認められた。

[考察及び結論]

今回、BCおよびTQにFn菌に対する強い抗菌活性があり、特にTQは、Fn菌の代謝阻害や酵素阻害作用が認められた。BCは、口臭・歯周病予防のみならず、消化管内における*F. nucleatum*のアミノ酸代謝阻害に寄与し腸内フローラ改善に働くことが期待される。

要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-4] 梅毒性直腸炎の1例

森 俊治¹, 田中 香織¹, 山田 英貴² (1.森外科医院, 2.山田外科内科)

症例は40歳，男性．25歳時肛門性交によるB型肝炎（治癒）．1週間前より便秘および肛門の違和感，便の狭小化，下血を主訴に当院を受診した．直腸肛門指診で直腸前壁にザラザラとした不整な粘膜を触知し，手指への血液の付着を認めた．腫瘍性病変は触知せず，肛門疾患も認めなかった．腹部が軽度膨満し臍周囲に軽度の圧痛を認めたが，腹部単純X-pでは異常を認めなかった．リンパ節腫大や皮疹は認めなかった．下部消化管内視鏡検査を行ったところ，下部直腸前壁に辺縁不整な深掘れした縦走潰瘍を認めた．そのさらに口側に発赤を伴うタコいぼ様粘膜隆起を数個認め，その頂部にいずれも不整潰瘍を伴っていた．また，これらの病変は縦走配列していたが，最も口側にある同様の粘膜隆起病変は下部直腸後壁に存在していた．血液検査で血清梅毒反応のRPR 99 R.U.，TPHA 640倍と高値を示したため梅毒と診断した．潰瘍部生検の病理検査ではHE染色においては非特異的炎症所見のみであったが，梅毒免疫組織染色でTreponema Pallidumが検出されたため梅毒性直腸炎と診断した．アモキシシリン1500mg/日内服により症状は改善し出血や便秘は治った．アモキシシリン投与直後2日間38.5度の発熱がありJarish-Herxheimer反応と考えられた．投与後7日目前後に起こる皮疹は認めなかった．血清梅毒反応は低下して，内服約1ヶ月後に行った下部消化管内視鏡検査で直腸潰瘍は癒着化していた．複数回にわたって問診を行ったが，最近の肛門性交の既往は確認できず感染経路は不明であった．本邦では梅毒患者が急増しており社会問題となっているが，消化管梅毒は梅毒患者の0.1%と言われているが，そのほとんどが胃梅毒とされ，直腸梅毒は非常に稀で本邦での報告例は16例しかなかった．当院で経験した梅毒性直腸炎について若干の考察を加えて報告する．

要望演題

■ 2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 ■ 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-5] 早期梅毒性肝炎を合併した早期梅毒に対してベンジルペニシリンベンザチン水和物が有用であった1例

田中 香織¹, 森 俊治¹, 山田 英貴² (1.森外科医院, 2.山田外科内科)

症例は28歳女性。約2週間前より排便時出血と肛門痛が出現し、同時に会陰部、前胸部、両前腕に淡赤色の発疹が出現したため当院受診した。肛門診察では12時に腫大した皮膚垂と5時、7時、12時の3カ所に硬結を有する幅広い潰瘍病変（硬性下疳）を認めた。両側鼠径部リンパ節腫大あり。血液検査では炎症反応上昇、肝胆道系酵素上昇を認め、梅毒検査（RPR、TPHA）が陽性であった。病歴を再度詳細に聴取したところ、1年前にマッチングアプリで知り合った男性との肛門性交歴が判明した。腹部エコーでは軽度肝腫大、軽度脾腫、胆嚢萎縮を認めた。S状結腸内視鏡検査ではS状結腸に5~10mmのやや隆起した扁平紅斑が多発していた。早期梅毒第2期および早期梅毒性肝炎と診断したが、1ヶ月半前より頭痛、耳鳴り、三叉神経痛が出現しており、1週間前からは38℃台の熱発を認めていたことより、早期神経梅毒を疑い、髄液検査を施行した。髄液検査では細胞数および髄液蛋白ともに正常であったため、神経梅毒の可能性は低いと判断し、ベンジルペニシリンベンザチン水和物（BPB）を240万単位筋注した。筋注後はすぐに解熱し、1週間後には頭痛や三叉神経痛も消失した。硬性下疳、皮疹、肝胆道系障害も徐々に改善傾向を示し、治療1ヶ月後にはRPR、TPHAともに治療前値の2分の1まで低下した。梅毒治療には長らくペニシリン長期内服が選択されてきたが、2022年1月よりBPB単回筋注が本邦で使用可能となった。BPB筋注は1回の筋注で治療終了となるため簡便で使いやすいが、神経梅毒には適応がないため、神経梅毒との鑑別が必要である。今回われわれは神経梅毒との鑑別を要し、BPB筋注が有用であった早期梅毒性肝炎の1例を経験したので、文献的考察も加えて報告する。

要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-6] 肛門科クリニックを受診した肛門クラミジア感染症例の検討

吉田 幸平¹, 樽見 研² (1.新宿おしりのクリニック, 2.樽見おしりとおなかのクリニック)

【背景】

性器クラミジア感染症は、クラミジア(*Chlamydia trachomatis*)が性行為により感染し、一般に男性では尿道炎と精巣上体炎を、女性では子宮頸管炎と骨盤内炎症性疾患を発症する。クラミジアが肛門に感染すると肛門症状として排便時出血や掻痒感を呈することがある。そのため、それらを主訴に肛門科を受診する患者が一定数いる。今回、当院で診断し治療を行なった直腸クラミジア感染患者について報告する。

【対象】

2021年10月から2025年3月までの3年6ヶ月に当院で治療した直腸クラミジア感染患者15例を対象とし、それぞれの特徴について検討した。

【結果】年齢は21歳-49歳（中央値31歳）。男性は12名で、女性は3名であった。全男性に肛門性交歴があった。無症候性感染者は4名だった。いくら状粘膜を認めた患者は6例だった。排便時出血を認めた患者は7例で、掻痒感を認めた患者は5例だった。全症例抗菌薬の内服で完治した。

【考察】

無症候性感染は患者本人が検査を希望し、偶然発見できたため、全て拾い上げることは困難である。排便時出血を認める症例は、全例直腸にいくら状粘膜を呈していた。診断の際には直腸部にリンパ濾胞増殖症・リンパ濾胞炎を呈する疾患が鑑別に挙がり、リンパ腫の特殊型であるMLP

(multiple lymphomatous polyposis)、直腸顆粒状隆起を呈する潰瘍性大腸炎やlymphoid follicular proctitisなどとの鑑別が必要である。クラミジア感染症は直腸擦過物で診断をつけることが出来るため、患者への侵襲が少なく、疑う場合は積極的に検査をしていくべきだと考える。

【結語】肛門鏡にていくら状粘膜などを発見することは可能であるため、排便時出血や肛門の掻痒感を主訴に受診する患者の中にクラミジア直腸炎の患者がいることを念頭において肛門診察にあたることが大切である。

要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-7] 都心部肛門科クリニックにおける梅毒診療の現状

福原 政作^{1,2} (1.名古屋栄駅前ふくはら大腸肛門外科・消化器内科, 2.医療法人愛知会家田病院)

【背景】梅毒は梅毒トレポネーマによる細菌性の性行為感染症である。本邦において近年著しい増加傾向がみられ、同様に肛門梅毒の症例も増加している。【対象】2020年3月から2024年12月までに当院で活動性梅毒と診断した症例41例につき検討した。【結果】対象症例は男性34例女性7例。平均年齢は34歳。全例なんらかの肛門愁訴を有していた。診断契機の内訳は肛門部硬性下疳が31例、扁平コンジローマが2例、梅毒性直腸炎が1例、別の意図による採血での診断(潜伏梅毒)が7例。他STDとの合併はHIVが9例、尖圭コンジローマが6例、クラミジア直腸炎が1例。感染経路として肛門性交は聴取できたもので26例、風俗含め不特定者との性交9例、不明例6例であった。【考察】当院における症例の76%は肛門部硬性下疳つまり第一期梅毒での診断であった。また男性が83%を占め、うち80%は同性愛者いわゆるMSM(men who have sex with men)であった。梅毒はこれまで特徴的な皮膚病変を典型症状として診断の主眼とされてきた。しかし感染後経過とともに一旦症状が消退するも、血行性リンパ行性に全身撒布されあらゆる臓器に急性・慢性炎症をきたす。多数の診療科にわたる多彩な臨床症状を呈し、他疾患と誤診されることも多い。このため感染初期に局所病変が出現したタイミングで患者が受診した際に担当科医が梅毒を正しく鑑別できるかどうか重要となる。肛門科でいえば肛門梅毒の特徴的所見である硬性下疳を初診で見落とさないことである。確診できなくとも鑑別に挙げれば梅毒血清学的診断により早期発見・早期治療が可能となる。当院は名古屋市栄の歓楽街に位置する肛門科クリニックである。若年層や様々なLGBTQ患者の受診が多く、多数の肛門梅毒症例を経験した。適切な早期診断・治療の啓発を目的として自験例につき供覧し文献的考察を含めて報告する。

要望演題

2025年11月15日(土) 8:30 ~ 9:30 第4会場

[R16] 要望演題 16 是非知っておきたい直腸肛門部の感染症

座長：矢野 孝明(ヤノ肛門外科クリニック肛門外科), 日高 仁(医療法人祥久会日高大腸肛門クリニック)

[R16-8] 肛門小窩炎に伴う肛門痛に対する2薬剤の比較検討

矢野 孝明 (ヤノ肛門外科クリニック)

目的：肛門小窩炎に伴う肛門痛に対して2剤（プロメライン・トコフェロール酢酸エステル配合剤と疎経活血湯）のうちいずれの薬剤が肛門小窩炎に伴う肛門痛に対して有効であるかについて調べることを目的とした。

方法：いずれかの薬物治療を1ヵ月間受けた患者の治療前後における痛みの変動値を2群間で比較した。

結果：本研究に適合した症例は75例（配合剤群：43例，漢方群：32例）であった。単変量解析と多変量解析を行ったところ，いずれにおいても痛みの変動値は2群間で有意差を認めなかった。痛みが有意に軽減した症例はそれぞれ35例（81%），25例（78%）であった。

結語：肛門小窩炎に伴う肛門痛に対して2剤は差が無いと考えられた